平成30年度学校だより
善誘館 NO．１０
Ｈ３１．１．２２
甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

体調管理に努め、自己を振り返り学年のまとめを　「すべては子どものために」

平成最後の年が始まり，早いもので３週間余りが過ぎました。３学期は，１年間の中で，最も短い学期でありますが，学年のまとめ（その学年で培うべき力を身に付けること）をしっかりと行い，新しい学年に進む準備をする学期です。特に，６年生は小学校生活最後の学期になるので，充実した思い出に残る学期にしてほしいと思います。保護者や地域の皆様には，引き続き学校教育への御理解と御協力をお願いいたします。

大寒を過ぎ１年で最も寒い時期を迎え列島全体が寒波に包まれており，暫くは厳しい寒さが続くと予想されます。また，空気の乾燥も重なりインフルエンザが流行する時期でもあります。本校でも，罹患者が増え，２年生を先週３日間，１年生を今週３日間の学級閉鎖の措置を取りました。流行拡大を防ぐための措置とはいえ，保護者の皆様には仕事等をやりくりする中で対応していただきありがとうございました。今後も，学級閉鎖の可能性がありますが，引き続き手洗いやうがい等を励行させ，拡大にならぬよう努めて参ります。

来年度の児童会役員決まる

児童会活動が，今年も６年生を中心として活発に展開されました。元気に声を交わした挨拶運動，ゲームや運動に親しみ絆を深めた縦割り班活動，毎月の生活目標を決めクラスごの取組の成果を代表委員会で発表し合いました。どの活動においても，友達と協力する姿と仲良く交流する様子が多く見られました。

このような活動をさらに活発にするために，その推進役となる児童会本部役員を決める選挙を行いました。各学級での話し合いを受けて立候補者が決まり，学級が一つになって，学級訪問や選挙運動を行いました。責任者は，立候補者の人柄や良いところをアピールし，立候補者は，自分がどういう児童会を作っていきたいのか自分の考えをしっかりと伝えることができました。１月１８日（金）に立会演説会と投開票を行い，次のように来年度の新役員が決定しました。

会　長	副　会　長	
立川諒太郎（現５年生）	林　亜衣梨（現５年生）	辻　劉備（現４年生）

児童会役員選挙のために，選挙管理委員の子ども達は，２学期から活動を開始し，演説会，投票，開票から当選証書授与までを責任を持って活動していました。また，立候補者の責任者となった子ども達は選挙運動の中心となり，積極的に学級をまとめ選挙運動に取り組みました。拍手です。

今年も「絆box」を設置

３学期の始業式で子ども達に次の話をしました。

各学級では，友達の良いところや輝いているところを見つけて発表して，とても素晴らしいと思います。友達の欠点や悪いところではなく，「良さ」を発見する優しい気持ちを感じました。また，その「良さ」を学級のみんなで認め合っていました。みんなに認められ，褒められることはうれしいですね。皆さん一人ひとりは，たくさんの「良さ」を持っています。友達同士で，「良さ」を見つけ合い，自分自身でも「良さ」を見つけ大きく成長し，学級や学校の絆を強くしていきましょう。

ここに箱があります。箱は「絆 box」といいます。善誘館小学校のみんなの絆が深まることを願って，今年も「絆 box」を児童玄関に置きます。うれしかったこと，頑張っている友達のこと，心がほんわかしたこと，友達の良いところ，こうなってほしいなと思うこと，悲しいこと，困っていること，などを校長先生に教えてください。「良い」ことや「がんばっていること」はみんなで認め合っていきたいと思います。また，悲しいことや困っていることには，そっと力を貸してあげたいと思います。この「絆 box」の隣りに用紙を置いておきますので，それに書いてこの箱に入れてください。

これまでに，多くの「良さ」が寄せられていますので，その一部を紹介します。これからも，子ども達の成長に役立つように活用して参ります。

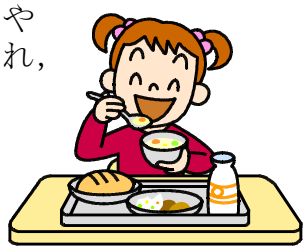
- いっしょに遊ぼうと誘ってくれてうれしかったです。
- 友達がしっかりとハンカチや鼻紙を持っていてすごいと思いました。
- 挨拶運動の後に，６年生が残っていたタスキを片付けていました。こんな６年生になれたらいいな。見本にしようと思いました。
- 社会の時に教科書を友達が貸してくれました。
- 勉強で分からない問題があったときに友達がアドバイスしてくれました。
- 困っているときにすぐそばにいてくれて助けてくれました。
- 落とし物を取ってくれたのがうれしかったです。

給食週間～食を考える機会に～

学校給食の始まりは，明治２２年，山形県の私立忠愛小学校で出された「おにぎり・塩鮭・菜の漬物」だそうですが，本格的な学校給食は戦後になってからです。

終戦後は食糧不足が続いており，その頃の小学校６年生の体格は，今の４年生ぐらいだったようです。昭和２１年に東京・神奈川・千葉で学校給食が開始され，それを記念して毎年学校給食週間（１月下旬）が設けられております。昭和２２年には，甲府市でも学校給食が始まり，ユニセフから脱脂粉乳，アメリカからも小麦粉が提供されました。

当時の給食は，アルマイト製の食器で，パンを主食とし，鯨肉の竜田揚げや千切りキャベツなどを副食としたものでした。その後，学校給食への理解の深まりや保護者からの絶大な支持を得て，昭和２９年に「学校給食法」が制定され，完全給食の素地が整い，急速な広がりをみました。



学校給食は，栄養のある食事を提供し児童の健康増進と体力の向上を図るとともに，みんなで食事を共にし，礼儀作法，友達との協力，更には食教育の推進を図っております。

現在，甲府市内の２５小学校では統一献立を実施しております。給食週間には，特別食としてほうとうなどの郷土食が出される予定です。この機会に，食事の果たす役割について，心身の両面から考えさせていきたいと思います。